

# 眠れる知財を価値に変える：日本の知財金融、停滞から推進へ

日本では企業の無形資産の価値が高まる一方、それを担保に資金を調達する「知財金融」は普及していません。  
本インフォグラフィックは、その停滞の理由と、活性化に向けた具体的な処方箋を解説します。

## なぜ進まない？日本の知財金融が抱える3つの壁



**課題①：価値が分からない**  
専門人材が不足し、特許などの担保価値を適正に算定できない。

**課題②：現金化できない**  
特許を売買する市場が未発達で、貸倒れ時に回収が難しい。



**課題③：慣習・知見がない**  
不動産担保や経営者保証に依存する文化が根強く、ノウハウが蓄積されていない。



## 海外の成功モデルと日本の処方箋

### 米国と中国の成功アプローチ



**米国：民間主導**  
市場メカニズムを通じて  
価値評価やリスク分散を行う。



**中国：政府主導**  
公的支援で評価負担と貸倒  
リスクを大幅に軽減する。

### 処方箋：2つの「負担軽減」策



#### 提案① 評価・管理負担の軽減

評価費用への補助金支給などで、  
専門家の活用を容易にする。



#### 提案② 貸倒リスクの低減

信用保証や損失補填制度で、  
万一の際の不安を和らげる。

